

エントリー名：愛知県東浦町立緒川小学校 教務主任 鈴木佳代

活動名：おがわっ子ワクワクプロジェクト！
願いが叶う！子どもが主役の学校づくり

解決すべき課題：

①特色ある教育がありきたりに！

・オープン・スクールとして開校から 4 5 年間研究を続けてきた「個別化・個性化教育（学びの主体者は子どもである）」の精神が希薄となり、特色ある学習プログラムの意義に鈍感になっていた。

②若手教師の未熟さが一方的な指導に！

・若手の教師が増え、指導への不安や責任感から教師主導の活動になっていた。

③余裕のなさが「聞く耳もたず」に！

・日々の業務に追われ、子どもたちのアイデアにじっくりと耳を傾けるゆとりがなかった。

目標・方針：子どもと先生がワクワクする学校をつくらう！

方針① 開校から続く理念「**学習の主体者は子どもである**」に立ち返る。子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちの発想や願い（ワクワク）を実現させる教育活動を仕組んでいく。

方針② 活動を子どもたちに委ね、見守ることのできる**教師としての力量を高めていく**。

方針③ **業務の精選**で余裕を生み出すことで、子どもたちに目を向け、**豊かな発想ができるようにする**。

活動内容：「おがわっ子ワクワクプロジェクト」の立ち上げ・実践

子どもたちの「ワクワク」（興味・関心、発案）から活動を組み立て、のびのびと活動をさせていく中で、子どもたちの「自ら学ぶ力」の育成を目指していこうという「おがわっ子ワクワクプロジェクト」を立ち上げる。

方針①の活動内容

4 5 年間の「個別化・個性化教育」の研究を振り返り、実践の意義を再確認するとともに、子どもたちの思いや願い（ワクワク）に寄り添った学習活動を展開する。

- ・子どもたちから出てきた活動のアイデアを「おがわっ子ワクワクプロジェクト」として全校で共有して支援していく。
- ・子どもたちの発想から活動案を練り、願いを後押しする教育活動にシフトする。
- ・これまで発行されてきた数々の研究冊子を読み解き、今後も継続できる理念や取組を再編集する作業を行う。

方針②の活動内容

若手を支援するための学習会や OJT 機能を充実させ、自信をもって子どもたちの前に立てるようにする。

- ・本校の取組が「令和の日本型学校教育」の目指す教育につながっていることを学ぶ機会を設ける。外部講師を招いて学習会を行うとともに（インプット）、視察・研修の外部団体に取組を発信すること（アウトプット）を通して、技量を高めていく。
- ・年間 1 5 回の校内研修会を企画する。研修内容を若手のニーズに合わせるとともに、研修会の取り回しを若手が輪番で行うようにし、主体性のある研修会にしていく。

方針③の活動内容

学年主任を中心としたチームで、教育課程や業務内容を見直ししていく。

- ・充実した教育活動を行う（教師のワクワクを生み出す）ために「行事のもち方」「時間割の編成」など教育課程の見直しと業務内容を精選していく活動を、チームで行っていく。

取組の過程：

活動の起点を子ども発想に

様々な行事や常時活動が慣習化し「例年通り」になりがちであった。そこで子どもたちの声（ワクワク）を聞き、その願いを支援するという姿勢に切り替えた。大きな取組は全校に周知し、学校全体で実現を応援した。資料 1 は「得意なことをみんなに見せたり応援したりする場がほしい」という願いから生まれた活動「おがわっ子プラス 1 グランプリ」の様子である。



資料 1 おがわっ子プラス 1 グランプリ

学びの起点を子ども発想に

授業づくりもワクワクを基にした。指導案には「おがわっ子ワクワクプロジェクト」を明記するようにし、子どもたちの思考に沿った単元構想をするようにした。（資料 2）

高学年では教師主導の家庭学習を廃止し、すべて自学スタイルとした。「学びたい」「できるようにになりたい」を後押しするために一人一人と相談をし、アドバイスをしていた。

無学年制学習教材「はげみ学習」の整備を行った。当該学年の学びだけでは不十分であるという子どもたちの声からである。漢字・四則計算・英単語・体力づくりの 4 領域について 6 年間の学びが手に取れるコーナーを設置し、「勉強したい」という子どもたちの思いを支援した。

資料 2 2 年国語「どうぶつ園のじゅうい」指導案より

4 5 年の成果・実績の振り返り

開校以来継続されてきた個別化・個性化教育を学び直すことをした。長年本校に携わってきた外部講師を招き、話を聞いたり共に教材研究をしたりした。また、これまで発行された出版本を読み返し、取組の経緯を知るとともに今後の活動に生きる内容をまとめ直す活動を行った。学んだことは、積極的に外部に発信をした。教務主任や研究主任だけでなく、多くの職員で協働して発信し、学びを共有したり確認したりできる場とした。

OJT・校内研修「仲間から学ぼう」

月曜を会議日、火曜から木曜を事務処理日、そして金曜を研修日として日課を組み替えた。金曜には全職員が集まって 30 分程度の学び合い「仲間から学ぼう」を行った。若手が中心となってテーマを決め、取り回しを行った。校内で不十分な場合は、近隣の教師や教育委員会指導主事、コミュニティから講師を招致し、研修の充実を図った。

業務内容の見直し・改善

学年主任を中心としたチームで、子どもたちに寄り添う時間を確保するための働き方を考えた。「大きな行事の前日は全校 5 時間とし、十分な準備時間を取ることで子どもも教師もワクワクして当日を迎えられるようにする」「毎週記載する週案の反省をなくし、必要なときだけ書くようにすることで授業計画に時間が割けるようする」などの改善が図られた。

教師もワクワクを

「教師のワクワクプロジェクト」も立ち上げた。一人一人がワクワクを発案し、そのプランを校内に掲示した。「教師がワクワクと取り組む姿を子どもたちに見せること」「長所を生かして主体的に学校経営に参画すること」が目的である。

活動の成果：子どもたちが主役の学校に！

不登校ゼロ！学校が楽しい！現時点で不登校児童はゼロ。一人一人に居場所や楽しみ・目標がある学校になった。夏休みの学校施設開放では、連日 100 人近くの子供たちが自主登校した。**子どもの思いがすべて！**授業や行事では子どもの発案と思考の流れを基にした実践に変わった。**全国から参観・発表・講師依頼が！**学校の取組を参観したいと全国の方々から問い合わせが続く。